



3

1. 中継で「かっぱ大交流会」に参加した狩俣小学校(沖縄県)
2. 「楽しい」と昆虫標本作りをする子どもたち
3. 会場では、七保小学校(三重県)の児童たちが作ったお茶(写真左)と牛久南中学校の生徒たちが作ったせんべい(写真右)も紹介されました



1



2

話題 街に ひろう

うしくサイエンス・ フェスタ2012

2月4日、市中央生涯学習センターで「うしくサイエンス・フェスタ2012」が開催され、多くの来場者でにぎわいました。

6回目を迎えた今回、大講座室で行われた「かっぱ大交流会」では、市内小中学校代表4校(岡田小学校、神谷小学校、牛久第二中学校、牛久第三中学校)の他に、三重県大紀町立七保小学校と沖縄県宮古島市立狩俣小学校が初参加。各校が日ごろの環境学習の成果を発表しました。

七保小学校は、過疎化で荒れた茶畑を地元の方たちと協力しながら再生させ、茶葉を商品化した成果を、また、テレビ会議で参加した狩俣小学校は、島の生き物たちが通る道の調査結果を発表しました。発表後には、市内小中学校代表4校と七保小学校、狩俣小学校で意見交換を行いました。

多目的ホールなどでは、移動式プラネタリウムの上映やペットボトルで空気砲を作るコーナーなどが設けられ、多くの子どもや親子連れが科学実験を楽しみました。

「小中学校芸術鑑賞実行委員会」とは…

多感な子どもたちの心に生涯を通じ、深く思い出として残ることが期待できることを主眼に公演会などを実施することにより、生涯にわたり芸術・文化に慣れ親しみ、「心の教育」に寄与することを目的に、平成23年度に新たに設置されました。



野村万蔵氏から所作などの指導を受ける児童たち

狂言「野村万蔵の会」牛久公演・鑑賞会

1月17日、市中央生涯学習センター・文化ホールで狂言「野村万蔵の会」牛久公演が開催され、市内小学校5年生および中学校2年生とその保護者、約1500人が参加しました。この公演は、子どもたちが芸術・文化に慣れ親しみ、「心の教育」を図ることを目的に、小中学校芸術鑑賞実行委員会が日本の伝統文化である狂言の鑑賞会を計画・運営したものです。

当日は、「盆山」と「梟山伏」の2公演の鑑賞会と体験指導が行われました。鑑賞会では、伝統ある「狂言」や「お囃子」について分かりやすい解説が盛り込まれ、非常に有意義な内容のものになりました。

また、体験指導では、野村万蔵氏の指導の下、各学校の代表16人が足袋を履いて、日ごろ、なかなか体験できない「すり足」や演目の中で演じられるさまざまな所作に挑戦。奮闘する児童・生徒の所作に、会場内の児童・生徒たちから笑いと応援の拍手が沸き起こりました。

参加した児童・生徒たちは、室町時代から続く伝統文化に触れ、貴重な体験ができたことに大満足したようでした。

新しく市指定文化財に

加わりました

①ヤツノ上遺跡出土大洞A式土偶および土器群（牛久市教育委員会所蔵）：現ひたち野うしく地区の開発に伴う発掘調査で出土した縄文時代晩期の資料で、中でも土偶は県内でも出土例が少なく、珍しいものです。

②田宮山薬師寺参道並木（田宮町・薬師寺）：かつて、ここには鎮守の森が広がっていましたが、市街化の影響でその多くが失われました。薬師寺の参道には、当時の名残として杉をはじめとする木々の並木がわずかに残されています。

③阿弥陀来迎および千手観音図（久野町・観音寺所蔵）：室町時代に描かれた作品とされ、上に阿弥陀三尊、下に千手観音が描かれた珍しい構図の仏画です。

問い合わせ 市生涯学習課 ☎内線3031



近所の力で初期消火！



牛久消防署長から感謝状を贈呈された皆さん。
写真右から國分さん、井木澤さん、遠藤さん

2月3日、初期消火で被害を最小限に抑えたとして、牛久消防署で感謝状の贈呈式が行われました。感謝状を贈呈されたのは、刈谷町に在住の國分幸男さん、井木澤章元さん、遠藤悦子さん。火災は、昨年12月に刈谷町で発生しました。この日、玄関に出ていて隣家の火災を発見した遠藤さんが、急いで近所の井木澤さんに連絡。同じころ、出火に気付いた國分さんが消防署へ連絡し、井木澤さんは、自宅にあったホースで初期消火をし、延焼を食い止めました。

牛久消防署は、この行為に対し、敬意と感謝の意を表して3人に感謝状を贈呈しました。

災害から身を守るために

1月22日、市中央生涯学習センターで「うしく安全・安心ワールド2012」が開催され、650人を超える方が会場を訪れました。

第1部のパネルディスカッションでは、牛久市が災害支援隊を派遣した宮城県亘理町から、産業観光課の東課長もパネリストとして参加。改めて支援に対する感謝の気持ちを述べた後、震災後急速に進む復興計画などについての報告がありました。また、むつみ行政区の根本勝区長は「自分たちの地域は自分たちで守る」という地域活動を報告。その他に、うしく里山の会の佐藤輝夫さん、牛久市職員の中村友子さんから報告がありました。



第2部の講演「東日本大震災で問われた『近助』の精神」では、防災システム研究所の山村武彦所長が「安全は行政だけに任せるのではなく、社会全体が支えるもの」として、「自助・共助に加えて『近助』の精神が大切だと提唱。

また、自分の身は自分で守ることの重要性を語り、「小さな地震は訓練と違って行動する習慣を付けてほしい」と会場の皆さんに訴えました。



1. パネルディスカッションの様子、2. 五十嵐達也さん(農業生産者グループUFOクラブ会長)、3. 入江信明さん(グループホーム虹の家責任者)、4. 青木千日代さん(教育コンサルタント・高校非常勤講師)、5. 長田明さん(つくばセントラル病院緩和ケア科医師)、6. 講演する木下晴弘さん

うしく男・女フォーラム

1月28日、市中央生涯学習センターで「うしく男・女フォーラム2012」が開催され、700人を超える方が会場を訪れました。

この催しは、人が輝きながら生きるために市民と行政、企業が連携し、世代を超え、仕事と生活の調和、そして明日を拓く意識が高まることを目的に開催されています。当日は、牛久栄進高等学校吹奏楽部による演奏や市民によるパネルディスカッション、講師を招いての講演会が行われました。

市民によるパネルディスカッションでは「生きていく智慧と力を伝えよう！〜すべての命を守り育てるために〜」と題して、長谷川幸介先生(茨城大学准教授)をコーディネーターに迎え、4人のパネリストが活発な意見交換を行いました。長谷川先生は「皆さん、東日本大震災を経験して、人は独りでは生きられないと実感したと思います。人としてどう生きていくのか。今、幸せづくりの立場に立ったと思います」と締めくくりました。

また、「魂を揺さぶる生涯忘れられない90分！感動は人を動かす」と題した木下晴弘さん(株)アビリティトレーニング代表の講演会では、他人を喜ばせる人生と自分が喜びたい人生のどちらが幸せかを比較し、「『人生の法則』として、①人に与えたものは必ず自分に返ってくる、②幸せはなるものではなく、気付くもの、③課題に挑戦することで人は成長し、輝く」と話しました。

こころを健康に！

1月21日、市保健センターで「こころの健康まつり」が開催されました。

同時開催の介護予防講演会では、渡辺隆生先生(NPO法人まちなか交友館まどか理事長)が「中高年のこころの変化：うつ・閉じこもり予防のために今からできること」と題して、講演。「自らの性格を把握し、適度に気分転換を図ること。また、家庭だけでなく、地域でも自分の居場所をつくるのが大事です」と話しました。また、「体とこころの凝りをとるストレッチと呼吸法」では、ストレッチ体験が行われました。

会場を訪れた参加者の1人、野田雅美さんは「理論と実践を交じえたアドバイスが参考になりました」と話していました。



みんなでストレッチ体験

大切な家族のきずな

2月2日、「平成23年度我が家のきずな締結式」が行われました。

市内ではこれまでに55組がこの協定を締結。今回は、新たに締結する5組のうち3組の家族が来庁し、調印しました。牛久市は、稲敷地区で2番目の締結数を誇っていて、生産者に男女共同参画に高い意識があることが分かります。

代表してあいさつをした下西良昌さんは「牛久で農業を営んでいるが、これまでは制度を知らなかった。仕事でもプライベートでもパートナーである妻を思い、お互いを認め合う証しとして今回締結を決意しました」と述べ、会場から大きな拍手を受けていました。



締結式に出席した農家の皆さん

家庭教育の大切さを学ぶ

2月9日、市中央生涯学習センター多目的ホールで「平成23年度牛久市家庭教育学級合同閉級式・記念講演会」が行われました。一年間を通してさまざまなことを学んだ約200人の学級生代表として、牛久小学級委員長の石田美和子さんが「教育の基本は家庭の中にあり、1年間を通して家庭教育の重要性を学びました」と謝辞を述べました。

また、記念講演会では、牛久市教育長の淀川ゆき氏の講演「真の教育とは：子どもとどう向き合うか」があり、自身が長年の教師生活を通して感じたことや学んだこと、さらに牛久市の教育への思いを学級生に向けて語りかけました。



講演する淀川ゆき教育長

学校給食「牛久の日」

1月25日、市内小中学校で牛久産の食材を取り入れた学校給食を提供する「牛久の日」が実施されました。この取り組みは、地場産品の積極的な活用と食と農の教育の一環として、平成18年度から行われています。

この日、牛久第三中学校では、市内で農業を営んでいる生産者の入江唯晃さんと五十嵐達也さんが招かれ、生徒たちと一緒に学校給食を楽しみました。



牛久産の食材を取り入れた給食を食べる生徒たち

このコーナーでは、市民の皆さんから寄せられたイラストや俳句、川柳などを紹介しています。なお、お便りには住所と氏名、電話番号を記入してください。また、匿名希望の方は、その旨記入してください。ペンネームもOKです。

あて先：〒300-1292牛久市中央3-15-1 「広報うしくちょっと休憩」係

Eメール shimin@city.ushiku.ibaraki.jp

ちょっと
休憩
ぶれいく

皆さんのお便りから

短歌・俳句・山柳コーナー

歌声や熟年集う春の午後

栄町 増田さん

孫たちに名入り鉛筆喜こぶ顔

さくら台 月田さん

節分に豆拾う人みな福の顔

さくら台 二国さん

木枯しや椿すうこ落つ苔の庭

田宮 岡村さん

北風にきれいに咲えたバラ一輪

刈谷町 小山さん

被災者の悲しみ想い寒き夜を

吾は小斎しょうさいの夕餉ゆうけとなしぬ

南 飯塚さん

青空も入れて写メール百日草

娘等こらに送りしふるさとの庭

南 上之原さん

立つ事も座ることさえまならぬ

あきないの道五十年すぐ

島田町 坪井さん



牛久町・渡辺さん

イラスト、俳句、川柳など、毎月たくさんのお便りありがとうございます。紙面の都合上、全てを掲載できない場合がありますが、今後もたくさんのお便りをお待ちしています。

しあわせをよぶレシピ

今月は、牛久市食生活改善推進員おすすめのレシピ、ほたて缶を使った本格中華料理



「れんこんシュウマイ」

を紹介します。お肉の柔らかさとれんこんのシャキシャキ感が絶妙なおいしいシュウマイです。ぜひお試しください。

1人分のカロリー 217kcal

材 料	2人分	1人分
豚ひき肉	100 g	50 g
れんこん	20 g	10 g
長ねぎ	10 g	5 g
玉ねぎ	30 g	15 g
しょうが	2 g	1 g
ほたて水煮缶	60 g	30 g
砂糖	小さじ2/3	1 g
塩	小さじ1/3	1 g
こしょう	少々	少々
しょうゆ	小さじ1/3	1 g
ごま油	小さじ1/2	1 g
片栗粉	小さじ1・1/3	2 g
シュウマイの皮	10枚	5枚
熱湯	200ml	100ml

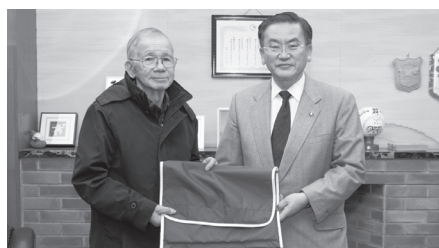
作り方

- ①れんこん、長ねぎ、玉ねぎ、しょうがはみじん切りにし、豚ひき肉、汁気を切ったほたて水煮缶、Aの調味料と一緒にボールの中で粘りが出るまでよく混ぜる。
 - ②①をシュウマイの皮に詰め、油を薄く引いた（フッ素樹脂加工の場合は不要）フライパンに並べる。
 - ③熱湯を静かに注ぎ入れ、中火で3分程度、ふたをして蒸し焼きにする。
- ※シュウマイをフライパンに並べるときは、隣同士くっつかないように並べると取り出すときに楽です。
- ※残ったほたての缶汁は捨てずにスープに入れたり、調味料代わりに使えます。
- ※野菜を添えるとグッとバランスが良くなります。

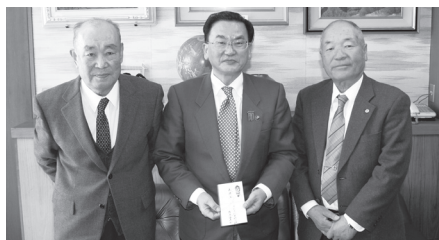
寄付金のご協力 ありがとうございます



2月1日、イオンアグリ創造(株)牛久農場から日本赤十字社茨城県支部牛久市地区(地区長 池辺勝幸市長)に31万842円が寄託されました(上写真)。この義援金は、1月に開催された「牛久シティマラソン」の会場で募ったものです。義援金は、日本赤十字社に贈られ、東日本大震災の被災地支援に使われる予定です。



1月18日、市内のオヤマダサイクルから自転車用バッグカバー50個の寄贈がありました。小学校の自転車通学児童に配布し活用します。



1月31日、女化文化芸術活動推進協議会から、「ふるさと寄附金」として、5万円が市に寄付されました。

この寄付金は、同協議会が昨年の夏祭りや収穫祭の際にうちわやキツネのお面などを売り上げた一部で、市が行う震災被害対策に活用されます。



1月23日、寺島薬局(株)から、市にマスク1500箱(1箱60枚入り)が寄贈されました。このマスクは、既にインフルエンザ対策用として配布され、残りは防災・公衆衛生用に活用する予定です。